様式第２号の１－①【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の１－②を用いること。

学校名	東京未来大学
設置者名	学校法人　三幸学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
こども心理学部	こども心理学科(心理専攻)	夜・通信	19	12	46	77	13	
	こども心理学科(こども保育・教育専攻)	夜・通信			59	90	13	
	こども心理学科通信教育課程	夜・(通信)	6	0	82	88	13	
モチベーション行動科学部	モチベーション行動科学科	夜・通信	19	0	75	94	13	
	モチベーション行動科学科通信教育課程	夜・(通信)	6	0	28	34	13	
（備考）								

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

本学ホームページにおける「情報の公表」にて一覧表を公開している。
（https://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/courses.html）

３．要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
（困難である理由） 該当なし

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	東京未来大学
設置者名	学校法人　三幸学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/yakuinmeibo.pdf

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	弁護士	2025年6月16日から4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	法務
非常勤	弁護士	2025年6月16日から4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで	法務
（備考）			

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	東京未来大学
設置者名	学校法人　三幸学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要） **⑴授業計画書（シラバス）の作成過程** ・シラバスの作成依頼 10月に次年度開講科目及び担当者が決定した後に各授業担当者に対してシラバスの作成を依頼する。(シラバスの作成依頼にあたって、作成要領及び作成方法についての作成例を配布して具体的に示している。) ・シラバス原案集計及び第三者チェック 集計したシラバス原案を本学教務委員会の責任の下、専任教員で分担し、書式及び記載内容について相互チェックを行う。(シラバスの第三者チェックにあたって、第三者チェック要領を配布して具体的に示している。) ・1月、シラバスチェック結果を授業担当者に返却し、修正の依頼を行う。 **⑵授業計画書の作成・公表時期** ・2月中、上述⑴において依頼した修正結果を反映させたシラバスの作成を全授業担当者に対して依頼。作成については本学シラバスシステムへの直接の入力によって行う。 ・2月末日をもって作成を締切り、作成未完了者に対して最終確認を行い完了次第、3月上旬に時間割表の公表、履修登録要項の公表に併せて、本学ホームページにおいて公表する。なお、公表した内容は本学学生、関係者以外もホームページから閲覧が可能であり、キーワード検索によって希望する科目のシラバス閲覧が可能である。	
授業計画書の公表方法	本学ホームページのシラバスページ (https://www02.tokyomirai.net/syllabus/) に公表し、学生、大学関係者及び一般も閲覧が可能である。 また、本学ホームページにおける「情報の公表」ページ(https://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/courses.html)からも閲覧が可能である。

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

(1) 評価基準

本学における成績評価については、学則において「学生に対して授業の方法及び内容ならびに授業計画をあらかじめ明示し、成績評価の認定に関して当該基準にしたがって適切におこなうものとする。」と規定し、各学部履修規程において「授業科目の単位認定は、定期試験又は授業期間中に実施した試験、あるいは定期試験の代替えとなるレポート評価及びその他による」と規定され、これに基づいて、各教科における成績評価基準と方法をシラバスに項目を設けて記載し、初回授業で学生に対して説明することとしている。

(2) 評価方法

・評価については、各学部履修規程において合格「S」「A」「B」「C」、不合格「E」「F」となっており、より客観性を維持するために授業担当者は 100 点満点の素点評価を行うこととなっている。なお、不合格の場合も学生の修学状況把握の意味から「E」到達度不足、「F」は履修放棄というように区分している。

・単位認定にあたっての必要要件として、授業回数の 3 分の 2 以上の出席を評価対象者の要件として全学部の履修規程に規定している。これは、出席状況は学習意欲を図る上での重要な要素であることから、すべての授業科目において厳格にチェックしており、各授業担当者は成績評価提出時に併せて欠席回数の報告を義務づけている。なお、欠席回数が許容範囲の 4 回に近づいた学生に対しては、授業担当者から報告があった場合に担当 CA(キャンパス・アドバイザー)が適宜電話等で指導・確認を行っている。

(3) 評価の確認

成績評価を学生に開示した後に、成績に関する質問期間を設けて、成績に疑問のある学生に問い合わせの機会を設け、当該学生に授業担当者から成績に係る説明を文書の提示により行う制度を設けている。なお、通信教育課程においては所定の質問期間を設けていないが、担当 CA を窓口として、メールや学生電話等で成績に関する質問を受け付けている。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

(1) GPA の算出方法

本学では、「東京未来大学成績評定平均値に関する規程」を定め、GPA の算出方法や必要な事項を定めている。算出方法は以下のとおりである。

評点(GP)
S(90～100):GP=4、A(80～89):GP=3、B(70～79):GP=2、C(60～69):GP=１、
E、F(0～59):GP=0

学期 GPA(当該学期における学修状況及び成果)

(各学期に評価を受けた科目で出た GP×その科目の単位数の合計)

その学期に履修した科目の単位数の合計

累計 GPA(在学全学期間の学修状況及び成果)

(各学期に評価を受けた科目で出た GP×その科目の単位数の合計)の総和

(その学期に履修した科目の単位数の合計)の総和

(2) 算出方法の公表

・GPA の意味及び算出方法について、入学時に全学生に配布する「学生便覧・履修の手引き」に項目を設けて記載し、入学時のオリエンテーションで説明している。また、本学ホームページの「情報の公表」において、学外にも開示している。
・学生に対しては、毎学期配布する成績通知書に学期 GPA、累計 GPA ともに記載しており、学生は各科目の成績と併せて確認することができる。また、成績通知書は保護者・保証人にも送付している。

(3) GPA 値の活用

・演習科目を選択する場合、GPA 値上位をもって配属を優先する。
・通学課程においては学期 GPA 値が 1.5 を下回った場合、その回数に応じて面談を実施し、修学指導のための資料として活用している。

1 回目	学生本人、担任/ゼミ教員および CA が面談を実施する。同時に書面にて保護者へ報告する。
2 回目	学生本人、担任/ゼミ教員および CA が面談を実施し、履修計画の見直しなど学習相談を行う。保護者へ報告するとともに、希望した保護者には面談に同席いただく。
3 回目以上	学生本人および保護者を交え、担任/ゼミ教員および CA が面談を実施し、修学意思の確認を行う。修学意思がある場合には、履修計画を抜本的に見直すなど学習相談を行う。

(4) 成績に係る個別指導及び状況の把握

学生の個別の成績は、各担当の CA に共有され、個別な履修指導に資するほか、全体的な分布については、本学教務委員会において情報として共有されている。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	・「学生便覧・履修の手引き」に記載している。 ・本学ホームページ「情報の公表」において公表している。 https://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/requirement.html

４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要）

(1) 卒業認定に関する方針の公表

本学は、学則に大学、各学科の教育の目的を明記し、それに沿って学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を定めている。

このディプロマ・ポリシーは本学ホームページの「情報の公表」において公表しているほか、学生全員に配布する「学生便覧・履修の手引き」に記載し、入学時に新入生に対してオリエンテーションで説明している。

(2) 学生が身につけるべき「学士力」の策定と公表（通学課程）

ディプロマ・ポリシーに加えて、具体的に卒業するまでに身につけるべき「学士力」を科目区分ごとに定め、学生に提示している。さらに授業科目において当該科目において身につけることのできる「学士力」をシラバスに項目を設けて明記し、単位授与にあたってのひとつの指標としている。

(3) ディプロマ・ポリシーに沿って充足すべき卒業要件の設定

学位授与方針に沿って、必要な知識・技能が身についたかを判定するために必修科目を設定している。また科目区分ごとの最低修得必要単位数を定めて、各専攻・学科の定めるディプロマ・ポリシーに沿った必要な知識・技能バランスを確保している。

これらを総じて卒業要件単位数として設定し、この卒業要件を充足していることが学位授与に不可欠となる。これらの要件も本学ホームページ及び学生全員に配布する「学生便覧・履修の手引き」に記載し、入学時に新入生に対してオリエンテーションで教務委員が説明しているほか、適宜担当の CA が個別に指導している。

(4) 卒業研究・卒業論文の厳格な審査の実施（通学課程）

本学では 4 年間の学びの集大成として、全学部において「卒業研究・卒業論文」及び「卒業研究」を 4 年生最後の必修科目として位置づけている。

この単位修得は、本学の卒業要件のうち必要な知識・技能の修得、作成プロセスにおける意欲や態度などをひとつの成果物として作り上げていく過程であり、この評価をもって東京未来大学のディプロマ・ポリシーに照らした学位授与認定の大きな判断材料であり、すべての要素が集約されている。

当然、その評価は卒業に直結するものであり、以下のとおり厳格に審査を行っている。

・主査、副査の審査による厳格性と専門性の確保
・卒業論文発表会の実施とその評価による公平性、透明性の確保

(5) 卒業認定手続き

卒業認定の可否は、本学学則に沿って各学生個々の単位修得状況(必修科目及び区分ごとの最低修得単位数)の個別な審査と修業年限の確認を教授会において審議して学長が決定している。

卒業の認定に関する方針の公表方法	・「学生便覧・履修の手引き」に記載している。 ・本学ホームページ「情報の公表」において公表している。 https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html

様式第２号の４－①【⑷財務・経営情報の公表（大学・短期大学・高等専門学校）】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第２号の４－②を用いること。

学校名	東京未来大学
設置者名	学校法人　三幸学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
財産目録	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
事業報告書	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf
監事による監査報告（書）	https://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/9.pdf

２．事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：
中長期計画（名称：　　対象年度：　　）
公表方法：

３．教育活動に係る情報

（１）自己点検・評価の結果

公表方法：ホームページ「自己点検・評価」にて公開 https://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/self_evaluation.html

（２）認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

（３）学校教育法施行規則第 172 条の２第１項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名　こども心理学部こども心理学科心理専攻
教育研究上の目的(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。(https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html))
（概要）幅広い教養とキャリア教育を前提とし、子どもを中心としたあらゆる年代を対象とした心理学の基礎的概念を修得し、心理学の理論や方法論に依拠した科学者－実践家モデルを基盤にしながら、人の健全な発達・学びを促すための理論的理解と実践力を養い、あわせて課程外における活動を通して「高度な専門的知識と技能」とともに「豊かな心」を併せ持った人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。 (https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html))
（概要）下の要件を満たす学生に学位を授与する。 以下の要件を満たす人材を養成する。 ○自然・人文・社会等の幅広い教養的知識・技能を修得している。 ○子どもを中心としたあらゆる年代の人の心理学に関して、学士として十分な専門的知識・技能を修得している。 ○教育・保育・福祉領域などにおける心理職としての専門的な知識を有し、実践的な力を発揮することができる技能を修得している。 ○実社会で活躍できるような、本学の共通及び専攻が指定した学士力（人間性や心の豊かさを培うスキル）を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。 (https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html))
（概要）幅広い教養及びキャリア教育を 1 年次から履修することと同時に、子どもを中心としたあらゆる年代の人の心理と行動の理解を基盤とした以下の教育を行う。 ○心理学の様々な領域における体系的・実践的な知識・技能を学ぶ。 ○心理学以外の分野の学び、また、人と家庭や社会、地域等の環境や文化との関わりを通して、人間理解を深める。 ○卒業研究科目では、こども心理演習Ⅰ(3 年次）、こども心理演習Ⅱ（3 年次）、卒業研究・卒業論文を必修として全員に課し、学問研究を深める。 ○本学の共通及び専攻が指定する学士力（人間性や心の豊かさを培うスキル）の形成を目指す。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：「学生募集要項」掲載及びホームページ「情報の公表」にて公開。(https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html))
（概要）以下の能力・資質を持っている人を受け入れる。 ○子どもを中心としたあらゆる年代の心理と行動をはじめとし、幅広い内容について興味・関心を有し、人の心の仕組みや働きについて論理的に理解することに積極的である。 ○多様な人々と積極的に関わり、互いに理解し尊重し合ったうえで適切な対人関係を構築すること及びその対人関係の構築について心理面からの理解と充実した表現方法による円滑なコミュニケーションを行うことに意欲的である。 ○教育・保育・福祉機関をはじめとする学外の様々なボランティア活動を通して、人を取り巻く社会について理解するとともに、社会貢献などでの関わりに積極的である。 ○上記を実現するにふさわしい学力・知力、そして豊かな発想力を備えている。

学部等名　　こども心理学部こども心理学科こども保育・教育専攻
教育研究上の目的(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。(https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html))
（概要）幅広い教養とキャリア教育を前提とし、未来を担う子どもたちの健全な発達・学びを促すために必要となる、子どもの保育学的・教育学的な理解に根ざした「高度な専門的知識と技能」とともに「豊かな心」を併せ持った人材を養成する。講義や演習及び実習さらには課程外における活動を通して理論的な理解力と実践力を併せ持った保育者・教育者を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。 (https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html))
（概要）以下の要件を満たす学生に学位を授与する。 ○自然・人文・社会等の幅広い教養的知識・技能を修得している。 ○子どもの心身の健全な発達についての高度な専門性を発揮できる職種である、小学校教諭、幼稚園教諭、保育士、福祉職種に向けた職能を修得するように努めている。 ○上記職種に限らず、家庭との関わり、環境や文化との関わりの中で育つ子どもに関する専門的知識・技能を利活用できる就業力を修得している。 ○実社会で活躍できるような、本学の共通及び専攻が指定した学士力（人間性や心の豊かさを培うスキル）を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。 (https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html))
（概要） 幅広い教養及びキャリア教育を 1 年次から履修することと同時に、子どもの「こころ」と「からだ」の健全な発達の理解を基盤とした以下の教育を行う。 ○子ども理解に根ざした心理学・保育学・教育学・福祉学等に関する体系的・実践的な知識・技能を学ぶ。 ○子どもの「育ち」と家庭や社会、地域等の環境や文化との関わりについて理解を深める。 ○卒業研究科目では、こども保育・教育演習Ⅰ(3 年次）、こども保育・教育演習Ⅱ（3 年次）、卒業研究・卒業論文を必修として全員に課し、学問研究を深める。 ○本学の共通及び専攻が指定する学士力（人間性や心の豊かさを培うスキル）の形成を目指す。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：「学生募集要項」掲載及びホームページ「情報の公表」にて公開。(https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html))
（概要）以下の能力・資質を持っている人を受け入れる。 ○大学の学びの基礎となる学力を有する。 ○様々な事柄に興味・関心を持ち、自身の経験や知識と関連付けて学ぶことができる。 ○自分の考えを適切に表現し、他者理解を持って人間関係を構築することができる。 ○心身ともに健康であり、積極的に行動できる。 ○未来に希望を持ち、子どもや保育・教育に関心を持っている。

学部等名　こども心理学部こども心理学科通信教育課程
教育研究上の目的(公表方法: 「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。 (https://corres.tokyomirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))
（概要）幅広い教養を前提とし、本学の教育を通信の方法により提供することで、時間や場所、職業などにかかわらず、多くの人たちが学習できる機会を実現し、知識・技能及び人間性さらには意思決定能力を自ら磨き、もって生涯教育の拠点として地域・社会の発展に貢献する人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。 (https://corres.tokyomirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))
（概要）以下の要件を満たす人材を養成する。 〇自然・人文・社会等の幅広い教養的知識・技能を修得している。 〇子どもに関する心理を中心に、学士として十分なこども心理学の専門的知識・技能を修得している。 〇家庭との関わり、環境や文化との関わりの中で育つ子どもの教育・保育・福祉側面とこども心理学に関係する専門的知識・技能を修得している。 〇実社会で活躍できるような、本学の共通及び通信教育課程が指定した学士力（人間性や心の豊かさを培うスキル）を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。 (https://corres.tokyomirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))
（概要）幅広い教養を１年次から履修することと同時に、子どもを中心とした心理と行動の理解及び子どもの「こころ」と「からだ」の健全な発達の理解を基盤とした以下の教育を行う。 〇こども心理学の様々な領域における体系的・実践的な知識・技能を学ぶ。 〇子ども理解に根ざした心理学、保育学、教育学、福祉学等に関する体系的・実践的な知識・技能を学ぶ。 〇子どもの家庭や社会、地域等の環境や文化との関わりについて理解を深める。 〇選択により卒業研究科目として、こども心理学演習(3 年次）、卒業研究(4 年次）を履修し学問研究を深めることができ、多様な学びに対応する。 〇本学の共通及び通信教育課程が指定する学士力（人間性や心の豊かさを培うスキル）の形成を目指す。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。 (https://corres.tokyomirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))
（概要）大学及びこども心理学部の教育目標を理解して学びを深め、積極的に人と関わり円滑な対人関係を構築することのできる人間力を持つ学生の入学を期待する。そのためには、常に学修への高い意欲を保持し、こども心理学部の教育及び将来の社会の要請に応える力を身につける積極性が求められる。ついては、大学内外における様々な活動やボランティア経験及び様々な個性・技能を持った学生を幅広く受け入れるための方針をここに示し、それに基づく学生の受け入れを行う。 〇様々な事柄に興味・関心を持ち、自身の経験や知識と関連付けて学ぶことができる。 〇自分の考えを適切に表現し、他者理解をもって人間関係を構築することができる。 〇子どもを中心としたあらゆる年代の心理と行動をはじめとし、幅広い内容について興味・関心を有し、心理学的観点からもその背景やプロセスについて論理的に理解することに積極的である。 〇多様な人々と積極的に関わり、互いに理解し尊重し合ったうえで適切な対人関係を構築すること及びその対人関係の構築について心理面からの理解と充実した表現方法による円滑なコミュニケーションを行うことに意欲的である。

学部等名　モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科
教育研究上の目的(公表方法: 「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開(https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html))
（概要）社会で必要とされる「組織成員として組織の健康な発展に貢献するモチベーション」、「他者を理解し、円滑な対人関係を志向するモチベーション」、「広い関心と学びを促すモチベーション」を学び・理解することにより、自己を含め、所属する集団や組織、地域・社会とその成員に対して影響力を与え、活性化することのできる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開 (https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html))
（概要）心理・コミュニケーション、経営、教育の科目群にわたって専門的な知識を修得し、社会に貢献しうる者に学位を授与する。学位の授与にあたっては最終学年で卒業研究の審査に合格し、卒業研究を含めた所定の単位を修得した者に「学士（行動科学）」の学位を授与する。卒業までの学びの到達目標は以下の通り設定される。 (1)個人をみつめる力を身につけること。 客観的な視点で人間行動を理解し分析することができ、モチベーションやリーダーシップに関する専門的知識を備え、所属する集団や組織、社会における成員の活動を促進する力を修得している。 (2)他者と関わる力を身につけること。 他者を肯定的に理解することができ、他者と円滑な対人関係を構築できる高いコミュニケーション能力と対人関係スキルを身につけ、他者や社会とより健全な関わりをもつ力を修得している。 (3)組織を動かす力を身につけること。 集団・組織の中で自分の立場を理解し、組織行動に関する基礎的知識を備え、組織活性化や人材の育成に取り組む力を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「情報の公表」にて公開。 (https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html))
（概要）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げる知識・技能の修得を円滑に進めることができるよう、一般教育科目、専門教育科目、キャリア科目、演習科目の下に科目を体系的に編成し、講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を開講する。 (1)一般教育科目では、社会・文化・自然に対する視点や考え方を育てることを目的とする教養科目、憲法、体育、情報、語学を学び、学生自身の理解度と学習進度に合った授業を行う。 (2)専門教育科目は、心理・コミュニケーション、経営、教育の科目群を必修とする。このうち、学びの基盤となるのは心理・コミュニケーション科目群であり、この科目群に置かれた科目を学ぶ中で、モチベーション行動科学の基礎となる研究マインドやデータ分析に関する知識と技能、コミュニケーション・スキルを身につけ、さらに経営科目群、教育科目群に置かれた科目を学ぶことで、各科目群が複合的に結びつき、広い視野での学びを可能にする。 (3)キャリア科目では、学内外で社会に触れる機会を設け、知識・技能を実践に活かす力を身につけることを目的に、早い時期からのキャリア教育に取り組む。 (4)プロジェクト（課程外活動）を通して、個人を見つめ、他者と関わり、組織を動かす自立した人間性や心の豊かさの充実を図る。 (5)幅広い教養及びキャリア教育及び専門科目を1年次から同時に履修するとともに、通学課程の演習科目では、1年次から卒業時まで学生一人一人の学修を促進するために、基礎演習（1年～2年次）、専門演習（3年次）、卒業研究（4年次）を必修とする。また、単位には含まれないが、学生は複数の専門演習やゼミに参加することも認められ（「ダブル・ゼミ」）、複合的な視点から学修を進める。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：「学生募集要項」掲載）　及びホームページ「情報の公表」にて公開。（https://www.tokyomirai.ac.jp/feature/policy.html））
（概要）大学及びモチベーション行動科学部の教育目標を理解し、その目標実現のために、自己を含め、所属する集団や組織、地域・社会とその成員に対して影響力を与え、活性化させる可能性を持つ学生の入学を期待する。そして、様々な経験を通して得られる人間力を高めていくことのできる学生、豊かな個性・経験・技能を持った学生を幅広く受け入れるための方針をここに示し、それに基づく学生の選抜を行う。 ・高等学校での教育課程を幅広く修得している。 ・モチベーション行動科学部で学ぶことに強い意欲をもっている。 ・豊かな発想力をもち、主体的に考え行動することができる。 ・人とよく関わることのできる対人関係能力・技能をもっている。 ・困難や課題を乗り越えた経験をもっている。

学部等名　モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科通信教育課程
教育研究上の目的(公表方法:「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。 (https://corres.tokyomirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))
（概要）社会で必要とされる「組織成員として組織の健康な発展に貢献するモチベーション」、「他者を理解し、円滑な対人関係を志向するモチベーション」、「広い関心と学びを促すモチベーション」を学び理解することにより、自己を含め、所属する集団や組織、地域・社会とその成員に対して影響力を与え、活性化することのできる人材を養成する。
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。 (https://corres.tokyomirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))
（概要）心理・コミュニケーション、経営、教育の科目群にわたって専門的な知識を学び、所定の単位を修得するとともに、社会に貢献しうる者に「学士（行動科学）」の学位を授与する。卒業までの学びの到達目標は以下の通り設定される。 (1)個人をみつめる力を身につけること。 客観的な視点で人間行動を理解し分析することができ、モチベーションやリーダーシップに関する専門的知識を備え、所属する集団や組織、社会における成員の活動を促進する力を修得している。 (2)他者と関わる力を身につけること。 他者を肯定的に理解することができ、他者と円滑な対人関係を構築できる高いコミュニケーション能力と対人関係スキルを身につけ、他者や社会とより健全な関わりをもつ力を修得している。 (3)組織を動かす力を身につけること。 集団・組織の中で自分の立場を理解し、組織行動に関する基礎的知識を備え、組織活性化や人材の育成に取り組む力を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。 (https://corres.tokyomirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))
（概要）卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技能の修得を円滑に進めることができるよう、一般教育科目、専門教育科目を体系的に編成し、テキスト科目、スクーリング科目、メディア科目を有機的に連携させた授業を開講する。 (1)一般教育科目では、社会・文化・自然に対する視点や考え方を育てることを目的とする教養科目、憲法、体育、情報、語学を学び、学生自身の理解度と学習進度に合った授業を行う。 (2)専門教育科目は、心理・コミュニケーション、経営、教育の科目群を必修とする。このうち、学びの基盤となるのは心理・コミュニケーション科目群であり、この科目群に置かれた科目を学ぶ中で、モチベーション行動科学の基礎となる研究マインドやデータ分析に関する知識と技能、コミュニケーション・スキルを身につけ、さらに経営科目群、教育科目群におかれた科目を学ぶことで、各科目群が複合的に結びつき、広い視野での学びを可能にする。 (3)通信教育課程では選択により卒業研究科目として、演習Ⅰ(3年次)、演習Ⅱ(3年次)、卒業研究(4年次)を履修し学問研究を深めることができ、多様な学びに対応する。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：「学生便覧・履修の手引き」掲載(全学生配付)及びホームページ「通信教育課程の概要」にて公開。 (https://corres.tokyomirai.ac.jp/info/education_philosophy.html))

（概要）大学及びモチベーション行動科学部の教育目標を学び・理解することにより、自己を含め、所属する集団や組織、地域・社会とその成員に対して影響力を与え、活性化させる可能性を持つ学生の入学を期待する。そして、様々な経験を通して得られる人間力を高めていくことのできる学生、豊かな個性・経験・技能を持った学生を幅広く受け入れるための方針をここに示し、それに基づく学生の受け入れを行う。
〇モチベーション行動科学部で学ぶことに強い意欲をもっている。
〇豊かな発想力で主体的に考え行動することができる。
〇企業人や公務員、各種法人職員等として活躍しながら、モチベーションについて学ぶことにより、組織貢献を希望している。
〇社会の一線を退き、家庭や地域コミュニティの中で生きつつ、その対人関係及びコミュニケーションの円滑化や活力の向上を求めて、学びに興味をもっている。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページ「情報の公表」にて公開
https://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/organization.html

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a.教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手その他	計
―	2人	―					2人
こども心理学部こども心理学科	―	17人	16人	18人	0人	0人	51人
モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科	―	7人	7人	3人	0人	0人	17人
こども心理学部こども心理学科通信教育課程	―	4人	4人	1人	0人	5人	9人
モチベーション行動科学部モチベーション行動科学科通信教育課程	―	1人	0人	0人	0人	0人	1人

b.教員数（兼務者）

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
0人	145人	145人

各教員の有する学位及び業績（教員データベース等）	公表方法：ホームページ「情報の公表」にて公開 https://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/index.html

c.ＦＤ（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学定員	編入学者数
こども心理学部(通学課程)	260 人	310 人	119%	1,100 人	1,250 人	114%	―人	0 人
こども心理学部(通信教育課程)	75 人	69 人	92%	900 人	1,385 人	154%	300 人	―人
こども心理学部合計	355 人	379 人	107%	2,000 人	2,635 人	132%	300 人	0 人
モチベーション行動科学部(通学課程)	80 人	74 人	93%	260 人	301 人	116%	―人	2 人
モチベーション行動科学部(通信教育課程)	20 人	18 人	90%	120 人	216 人	180%	20 人	―人
モチベーション行動科学部合計	100 人	92 人	92%	380 人	517 人	136%	20 人	2 人
合計	455 人	471 人	104%	2,380 人	3,152 人	132%	320 人	2 人

(備考)

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数(自営業を含む。)	その他
こども心理学部	262 人 (100%)	6 人 (2.29%)	245 人 (93.51%)	11 人 (4.19%)
モチベーション行動科学部	62 人 (100%)	1 人 (1.61%)	60 人 (96.77%)	1 人 (1.61%)
合計	324 人 (100%)	7 人 (2.16%)	305 人 (94.13%)	12 人 (3.70%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数(任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）
(1)授業計画書（シラバス）の作成過程
・シラバスの作成依頼
10 月に次年度開講科目及び担当者が決定した後に各授業担当者に対してシラバスの作成を依頼する。（シラバスの作成依頼にあたって、作成要領及び作成方法についての作成例を配布して具体的に示している。）
・シラバス原案集計及び第三者チェック
集計したシラバス原案を本学教務委員会の責任の下、専任教員で分担し、書式及び記載内容について相互チェックを行う。（シラバスの第三者チェックにあたって、第三者チェック要領を配布して具体的に示している。）
・1 月、シラバスチェック結果を授業担当者に返却し、修正の依頼を行う。
(2)授業計画書の作成・公表時期
・2 月中、上述(1)において依頼した修正結果を反映させたシラバスの作成を全授業担当者に対して依頼。作成については本学シラバスシステムへの直接の入力によって行う。
・2 月末日をもって作成を締切り、作成未完了者に対して最終確認を行い完了次第、3 月上旬に時間割表の公表、履修登録要項の公表に併せて、本学ホームページにおいて公表する。なお、公表した内容は本学学生、関係者以外もホームページから閲覧が可能であり、キーワード検索によって希望する科目のシラバス閲覧が可能である。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要）
＜学修成果に係る評価＞
(1)評価基準
本学における成績評価については、学則において「学生に対して授業の方法及び内容ならびに授業計画をあらかじめ明示し、成績評価の認定に関して当該基準にしたがって適切におこなうものとする。」と規定している。さらに各学部履修規程においては「授業科目の単位認定は、定期試験又は授業期間中に実施した試験、あるいは定期試験の代替となるレポート評価及びその他による」と規定し、これに基づいてシラバス内の所定の箇所に、各授業科目の成績評価基準と方法を記載し、初回授業においても学生に対して説明することとしている。
(2)評価方法
・評価については、各学部履修規程において合格「S」「A」「B」「C」、不合格「E」「F」との評語で表すこととしており、その根拠として授業担当者は、100 点満点の素点評価を行っている。なお、不合格の場合も学生の修学状況把握の意味から「E」到達度不足、「F」は履修放棄というように区分している。
・単位認定の要件として、授業回数の 3 分の 2 以上の出席を両学部の履修規程に規定している。出席状況は学習意欲を図る上での重要な要素であることから、すべての授業科目において厳格に管理しており、各授業担当者には成績評価提出時に併せて欠席回数の報告を義務づけている。なお、欠席回数が単位認定の許容範囲を超過する可能性がある学生については、授業担当者から報告を受けて、担当 CA(キャンパス・アドバイザー)が適宜、電話等で指導・確認を行っている。
(3)評価の確認
成績に疑問のある学生が授業担当教員に問い合わせをすることができる制度を設けている。担当教員は問い合わせがあった場合、文書の提示による回答を行う。

＜卒業にあたっての基準＞
(1)ディプロマ・ポリシーに沿って充足すべき卒業要件の設定
学位授与方針に沿って、必要な知識・技能が身についたかを判定するために必修科目を設定している。また科目区分ごとの最低修得必要単位数を定めて、各専攻・学科の定めるディプロマ・ポリシーに沿った必要な知識・技能バランスを確保している。
これらを総じて卒業要件単位数として設定し、この卒業要件を充足していることが学位授与に不可欠となる。これらの要件も本学ホームページ及び学生全員に配布する「学生便覧・履修の手引き」に記載し、入学時に新入生に対してオリエンテーションで教務委員が説明しているほか、適宜担当の CA(キャンパス・アドバイザー)が個別に指導している。

(2)卒業研究・卒業論文の厳格な審査の実施（通学課程）
本学では 4 年間の学びの集大成として、全学部において「卒業研究」及び「卒業研究・卒業論文」を 4 年生最後の必修科目として位置づけている。
　この単位修得は、本学の卒業要件のうち必要な知識・技能の修得、作成プロセスにおける意欲や態度などをひとつの成果物として作り上げていく過程であり、この評価をもって東京未来大学のディプロマ・ポリシーに照らした学位授与認定の大きな判断材料であり、すべての要素が集約されている。
　当然、その評価は卒業に直結するものであり、以下のとおり厳格に審査を行っている。
・主査、副査の審査による厳格性と専門性の確保
・卒業論文発表会の実施とその評価による公平性、透明性の確保
(3)卒業認定手続き
卒業認定の可否は、本学学則に沿って各学生個々の単位修得状況(必修科目及び区分ごとの最低修得単位数)の個別な審査と修業年限の確認を教授会において審議して学長が決定している。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要となる単位数	ＧＰＡ制度の採用（任意記載事項）	履修単位の登録上限（任意記載事項）
こども心理学部	こども心理学科(心理専攻)	124 単位	㊒・無	単位
	こども心理学科(こども保育・教育専攻)	130 単位	㊒・無	単位
	こども心理学科(通信教育課程)	124 単位	㊒・無	単位
モチベーション行動科学部	モチベーション行動科学科	124 単位	㊒・無	単位
	モチベーション行動科学科（通信教育課程）	124 単位	㊒・無	単位
ＧＰＡの活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報（任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
・「学生便覧・履修の手引き」に記載している。
・本学ホームページ「情報の公表」において公表している。

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
こども心理学部	こども心理学科 (心理専攻) 2020 年度　入学生以前	780,000 円	100,000 円	230,000 円	(毎年度) 施設設備費 230,000 円
	こども心理学科 (心理専攻) 2021 年度　入学生以降	800,000 円	100,000 円	(初年度のみ) 460,000 円 (2 年次以降) 250,000 円	(毎年度) 施設設備費 250,000 円 (初年度のみ) 教育充実費 200,000 円 新入生研修費用 10,000 円
	こども心理学科 (こども保育・教育専攻) 2020 年度 入学生以前	780,000 円	100,000 円	230,000 円	(毎年度) 施設設備費 230,000 円
	こども心理学科 (こども保育・教育専攻) 2021 年度　入学生以降	800,000 円	100,000 円	(初年度のみ) 460,000 円 (2 年次以降) 250,000 円	(毎年度) 施設設備費 250,000 円 (初年度のみ) 教育充実費 200,000 円 新入生研修費用 10,000 円
	こども心理学科 (通信教育課程)	164,000 円 別途、 スクーリング 料　／単位 (講義・演習科 目) 7,500 円 (実技・実験科 目) 11,000 円	30,000 円	0 円	
	こども心理学科 (通信教育課程) 編入	164,000 円 別途、 スクーリング 料　／単位 (講義・演習科 目) 7,500 円 (実技・実験科 目) 11,000 円	50,000 円	0 円	
モチベーション行動科学部	モチベーション行動科学科 2020 年度　入学生以前	840,000 円	100,000 円	230,000 円	(毎年度) 施設設備費 230,000 円
	モチベーション行動科学科 2021 年度 入学生以降	840,000 円	100,000 円	(初年度のみ) 460,000 円 (2 年次以降) 250,000 円	(毎年度) 施設設備費 250,000 円 (初年度のみ) 教育充実費 200,000 円 新入生研修費用 10,000 円
	モチベーション行動科学科 (通信教育課程)	164,000 円 別途、 スクーリング 料　／単位 (講義・演習科 目) 7,500 円 (実技・実験科 目) 11,000 円	30,000 円	0 円	
	モチベーション行動科学科 (通信教育課程) 編入	164,000 円 別途、 スクーリング 料　／単位 (講義・演習科 目) 7,500 円 (実技・実験科 目) 11,000 円	50,000 円	0 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a.学生の修学に係る支援に関する取組

（概要）

・学習面のフォロー役として、クラス担任を配置

主に学習面でのフォローを担うのがクラス担任である。科目の履修方法や学習の仕方など親身にサポートをしている。

・履修登録にあたって

オリエンテーションの際、履修登録方法やカリキュラムなど様々な説明を行う。なお、2年次の秋学期以降については、担当CAが、個別に前学期までの成績と対比しながら今後の履修科目のアドバイスや相談を受けている。

・GPA値の活用

各期のGPA値が1.5を下回った場合、下回った回数や欠席日数に応じて、学生本人および保護者、担任／ゼミ教員およびCAが面談を実施し、修学意思がある場合には、履修計画を抜本的に見直すなど学習相談を行っている。

・オフィスアワー制度の導入

学生が気兼ねなく教員の研究室を訪問しやすいように、「この時間なら大歓迎ですよ」という相談タイムを設け制度化している。教員は腰をすえて相談や質問に応じている。

・ピアサポーター制度の導入

先輩が、授業の受け方や履修登録の仕方、課外活動や、アルバイト、一人暮らしの疑問など、新入生が大学生活を送るうえで分からないことや困っていることがある時に、耳を傾け、共に考え、アドバイスを伝えている。

b.進路選択に係る支援に関する取組

（概要）

・進路・生活面での相談役として、CAを配置

毎日の学習や就職など、不安や悩みがあるとき、相談相手になる。CAの役割は多岐に渡る。個人ごとの目標の設定から、その目標を実現するための計画やアドバイスなど、入学から卒業まで成長をサポートしている。

・キャリアセンター、保育・教職センターで進路に合わせたキャリアサポートを実施

就職や進学、資格やインターンシップ・アルバイト・ボランティアに関する情報を提供している。また、各種対策講座、キャリアガイダンスを実施している。また、ＣＡ・担任・ゼミ教員・各センター教職員がチームを組み、進路に関する個別サポートを行っている。

・担当ＣＡによる面談の実施

１年次より学期ごとに、年２回、４年間、実施している。

c.学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

（概要）

・特別な配慮の申し出

疾病、負傷中又は障害のある学生においては、特別な配慮を希望する場合は、診断書等をもって、担当CAに相談することができる。

・定期健康診断の実施、保健室の設置

・学生は団体保険に加入

・学生相談体制の整備

CAや担当教職員が、本学の全学生・保護者・保証人を対象に、学生生活における学習や人間関係に関することなど、様々な相談を受付けている。また、友人関係、大学教員や職員との人間関係などに係る問題、ハラスメントやその他の学内での苦情に関して、

お話を伺い、必要な情報の提供やアドバイスをしている。
　また、学生相談室の学内心理カウンセラーが、うつ状態や不安感など、主に心理的な問題のカウンセリングに関して対応している。

・ハラスメントの対応
　ハラスメントに関する相談窓口を設け、連絡を受け次第、委員会を置き、相談・助言・救済等を受けられるようにしている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページ「情報の公表」にて公開
https://www.tokyomirai.ac.jp/info/disclosure/

備考　この用紙の大きさは、日本産業規格Ａ４とする。

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F113310104063
学校名（○○大学 等）	東京未来大学
設置者名（学校法人○○学園 等）	学校法人　三幸学園

１．前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生（内数） ※家計急変による者を除く。		290人（　112　）人	321人（　131　）人	321人（　131　）人
内訳	第Ⅰ区分	108人	105人	
	（うち多子世帯）	（　14　人）	（　15　人）	
	第Ⅱ区分	46人	47人	
	（うち多子世帯）	（　－人）	（　－人）	
	第Ⅲ区分	31人	24人	
	（うち多子世帯）	（　－人）	（　－人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	23人	22人	
	区分外（多子世帯）	66人	88人	
家計急変による 支援対象者（年間）				0人（　0　）人
合計（年間）				321人（　131　）人

（備考）
前半期：家計支援停止処置における対象者16名該当あり
後半期：家計支援停止処置における対象者35名該当あり

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）第４条第２項第１号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第４９号）第２条第１項第２号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

２．前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（１）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	0人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	- 人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	- 人	人	人
計	- 人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（２）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）			
年間	- 人	前半期	人	後半期	人

（３）退学又は停学（期間の定めのないもの又は３月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
３月以上の停学	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

３．前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（１）停学（３月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

３月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
（備考）	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（２）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
ＧＰＡ等が下位４分の１	- 人	人	人

４．適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が２年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が２年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当	0人	人	人
ＧＰＡ等が下位４分の１	17人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	17人	人	人
（備考）			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。